

- Beyond The Document Master -

Trinity

設計書自動作成&システム調査ツール

<導入の手引き>



株式会社 ZeroDivide

1章 ソフトウェアの導入と削除

1-1 はじめに

ここではソフトウェアの導入と削除について説明します。

Trinity を動作させるためにはソフトウェア本体の導入の他にライセンスの導入が必要になります。ライセンスは「キーディスク」と呼ばれる USB メモリーとして提供されます。そのため導入には USB インターフェイスが必要になります。またソフトウェアを削除する場合はソフトウェア本体を削除する前にライセンスをキーディスクに戻す必要があります。

なおキーディスクの破損や紛失については有償対応となりますので大切に保管して下さい。

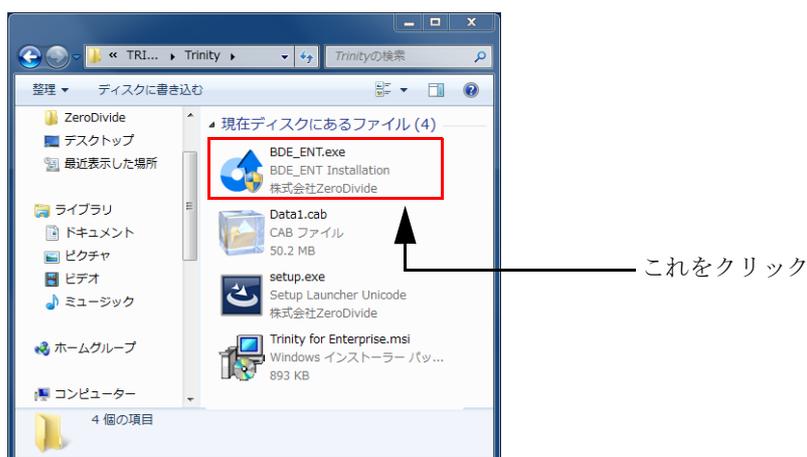
上記の点を除けば一般的なソフトウェアと同様の手順でTrinityの導入および削除を行うことができます。

※ 環境を移行可能なソフトウェアが導入されている場合は 23 ページ「ソフトウェアの移行」を元に導入作業を進めてください。

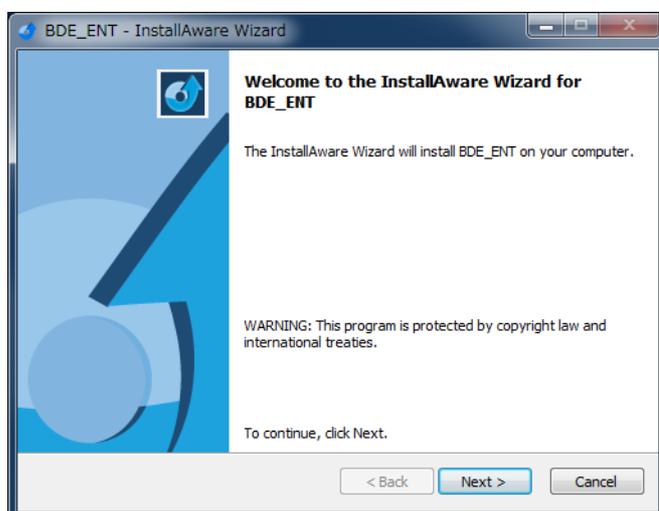
1-2 データベースエンジンの導入

ここではデータベースエンジンの導入手順について説明します。なおデータベースエンジンの導入は必ず Trinity の導入を行う前に実施してください。

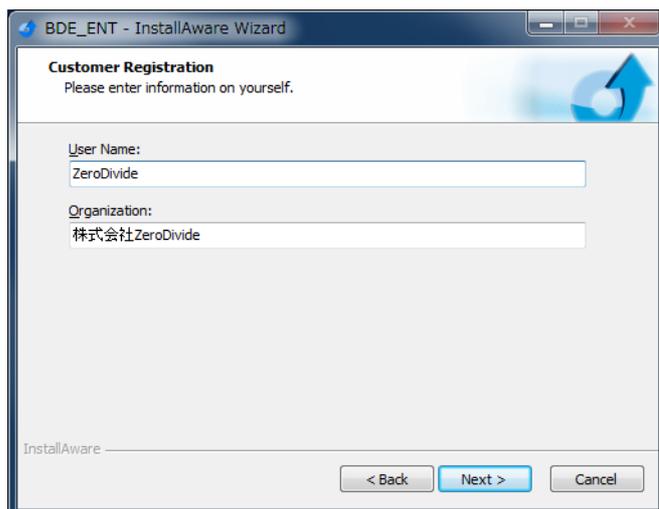
1. CD-ROM もしくはキーディスク内の「Trinity」フォルダを開いて「BDE_ENT.EXE」を実行します。
なおユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示された場合は「はい」をクリックして続行します。



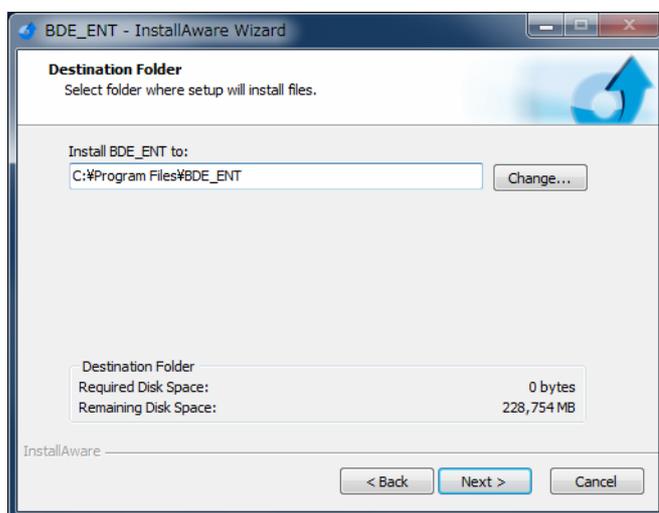
2. 画面が表示されますので内容を確認して「Next」をクリックします。



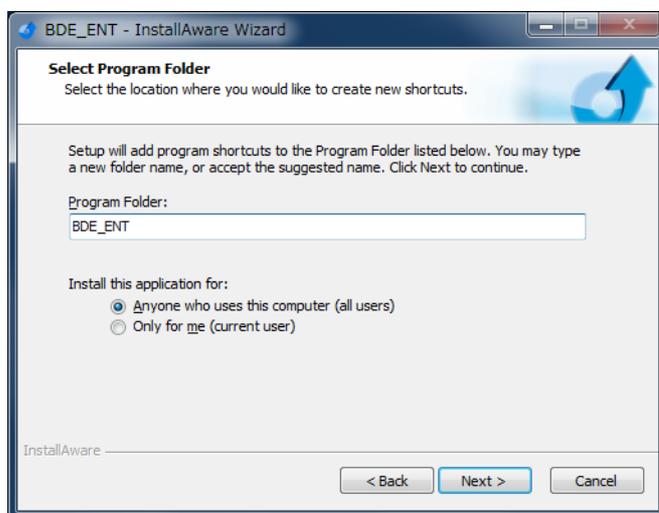
3. 続いてユーザー情報の設定を行います。ユーザー名 (UserName) と所属先 (Organization) を入力したら「Next」をクリックします。



4. 続いてインストール先フォルダの設定を行います。特に変更がない場合は「Next」をクリックします。



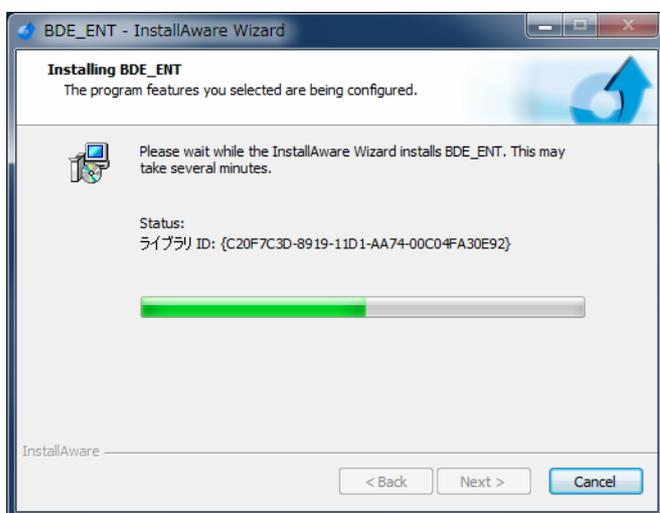
5. 次にショートカットフォルダなどの設定を行います。特に変更がない場合は「Next」をクリックします。



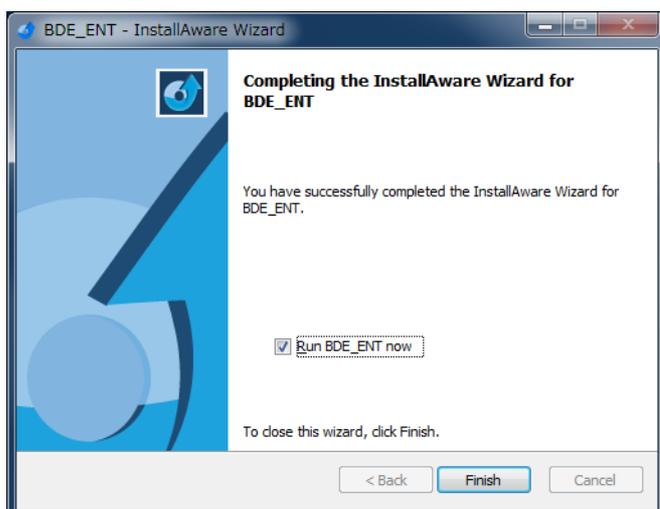
6. インストール内容の確認画面が表示されますので、このままインストールを行う場合は「Next」をクリックします。



7. 経過を表示するダイアログが表示されますのでしばらくお待ちください。



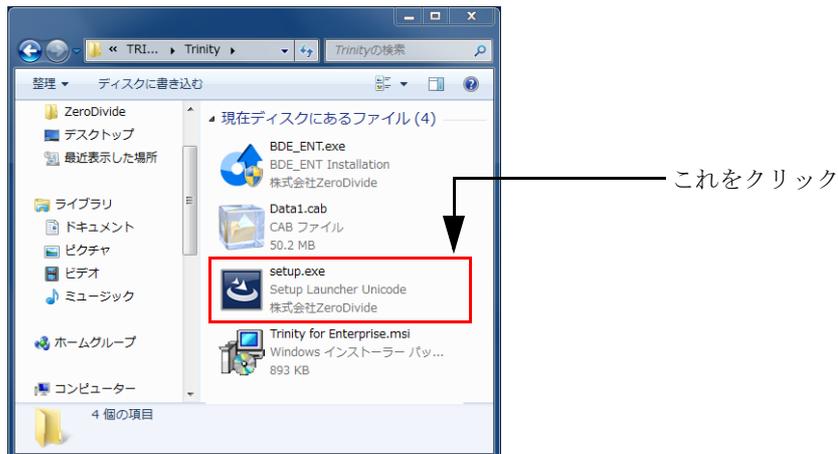
8. インストールが完了するとダイアログが表示されますので「Finish」をクリックします。



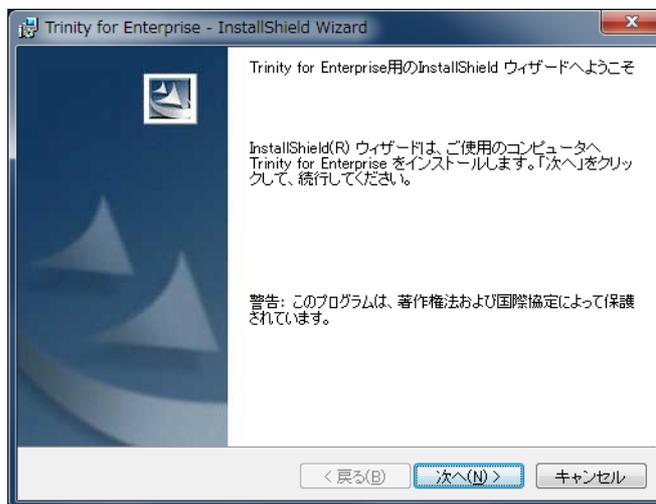
1-3 Trinity の導入

ここでは Trinity の導入手順について説明します。

1. CD-ROM もしくはキーディスク内の「Trinity」フォルダを開いて「SETUP.EXE」を実行します。



2. 画面が表示されますので内容を確認して「次へ」をクリックします。



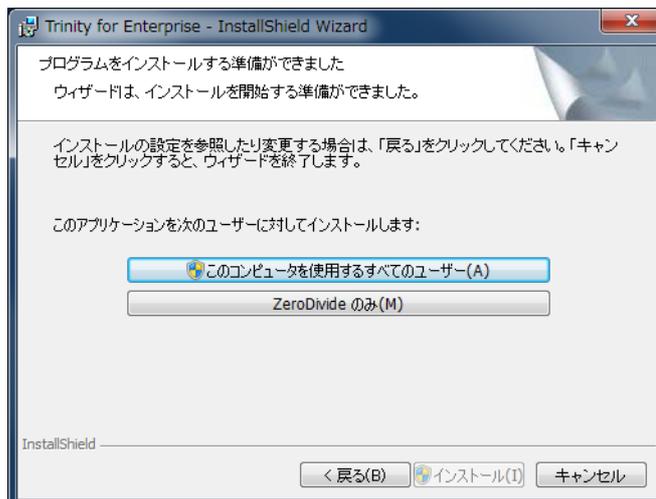
3. 続いてユーザー情報の設定を行います。ユーザー名と所属先を入力したら「次へ」をクリックします。



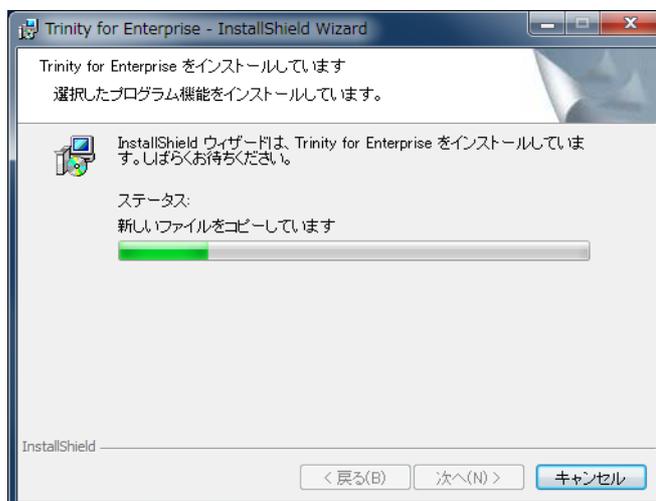
4. 続いてインストール先フォルダの設定を行います。もし変更する場合は変更ボタンをクリックしてインストール先の設定を行います。なお Windows Vista 以降の場合は Program Files フォルダにはインストールしないでください。設定が終わったら「次へ」ボタンをクリックします。



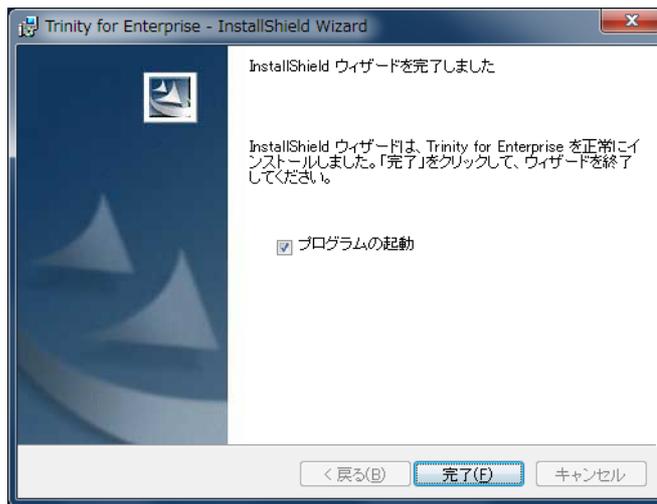
5. インストールを行うユーザーの選択画面が表示されます。通常は「このコンピュータを使用するすべてのユーザー」をクリックしてインストールを行います。なおユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示された場合は「はい」をクリックして続行します。



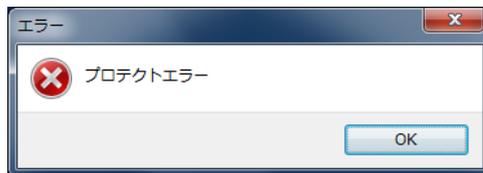
6. 経過を表示するダイアログが表示されますのでしばらくお待ちください。



7. インストールが完了するとダイアログが表示されますので「完了」ボタンをクリックします。



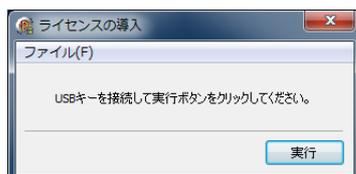
8. プロテクトエラーのメッセージが表示されますので「OK」ボタンをクリックしてライセンスの導入画面を表示させます。なおメッセージが表示されない場合はスタートメニューから直接 Trinity を起動してください。ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示された場合は「はい」をクリックして続行します。



※ 他のウィンドウが開いている場合、その後ろに隠れていることがあります

※ キーディスク（USB メモリー）はハードウェアキーとしても動作するようになっています。そのためキーディスクから導入を行った場合やキーディスクを接続したままファイルデザインシステムを起動するとエラーメッセージは表示されません。その場合はスタートメニューから「キー設定」を直接起動してください。

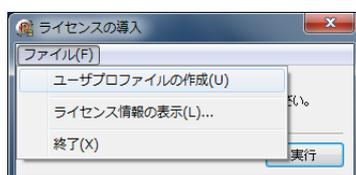
9. キーディスクを接続して「実行」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されますので導入を行う場合は「OK」をクリックします。



10. 導入が成功すると残りのライセンス数が表示されますので「OK」ボタンをクリックして画面を閉じます。



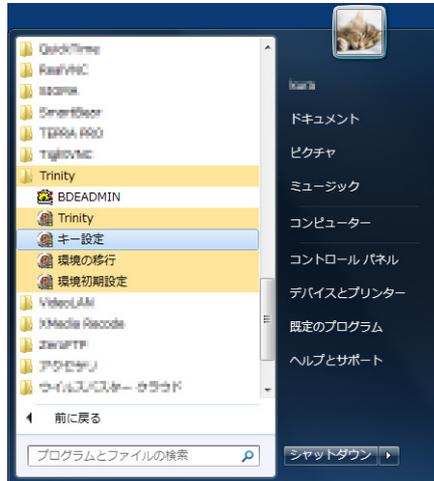
11. キーディスクを使ったライセンスの導入が行えない場合、メニューの「ファイル」から「ユーザープロファイルの作成」を選択してユーザープロファイルを作成し、メールで弊社にお送りください。ライセンスファイルを返送させていただきますので、導入先フォルダ内の「Winfd」フォルダにコピーすることで使用できるようになります。



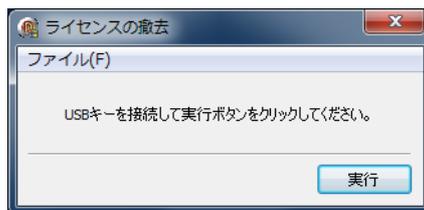
1-4 Trinity の削除

ここでは Trinity の削除手順について説明します。なおスケジューラーを起動している場合は作業前に必ず停止させてください。

1. 初めにライセンスをキーディスク（USB メモリー）に戻します。なおライセンスの導入にユーザープロファイルを使用した場合は 4. に進んでください。スタートメニューから「キー設定」を起動します。



2. ライセンスの撤去画面が表示されたらキーディスクを接続して「実行」ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されますので「OK」ボタンをクリックします。



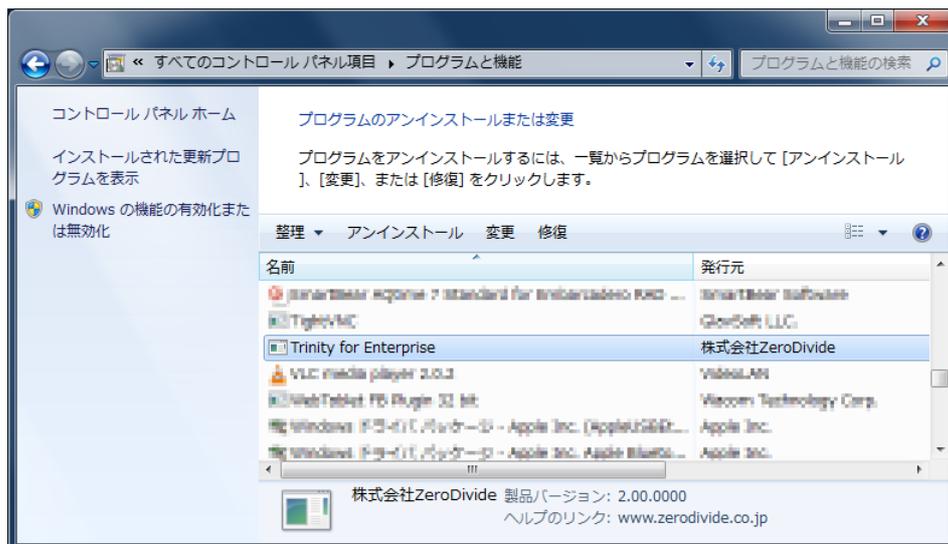
3. 成功するとキーディスク内のライセンス数が表示されますので「OK」ボタンをクリックして画面を閉じます。



4. 続いて Trinity 本体のアンインストールを行います。スタートメニューのコントロールパネルを開いて開いて「プログラムのアンインストール」を実行します。



5. 導入済みソフトウェアの一覧が表示されますので「Trinity」を選択してアンインストールボタンをクリックします。確認のメッセージが表示された場合は「はい」をクリックして続行してください。



6. 経過を表示するダイアログが表示されます。



7. 導入済みソフトウェアの一覧から Trinity が削除されていれば完了です。

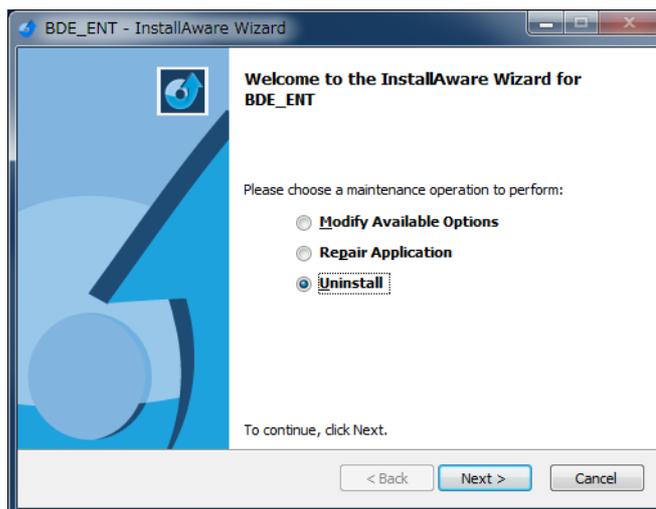
1-5 データベースエンジンの削除

ここではデータベースエンジンの削除手順について説明します。

1. 導入済みソフトウェアの一覧から「BDE_ENT」を選択してアンインストールボタンをクリックします。確認のメッセージが表示された場合は「はい」をクリックして続行してください。



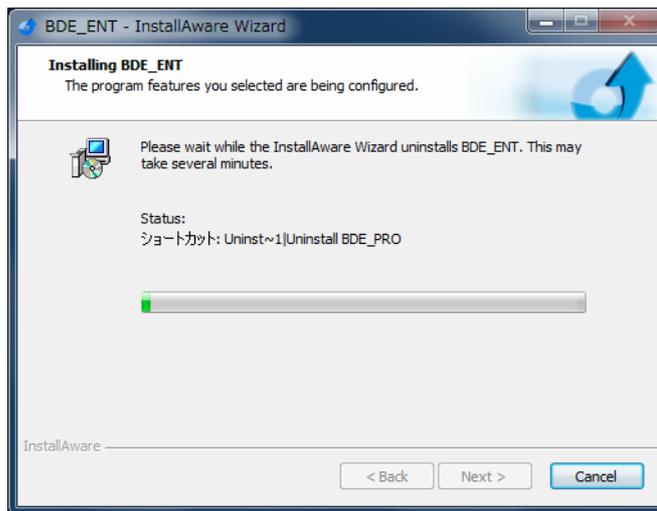
2. 選択画面が表示されますので「Uninstall」がチェックされたまま「Next」をクリックします。



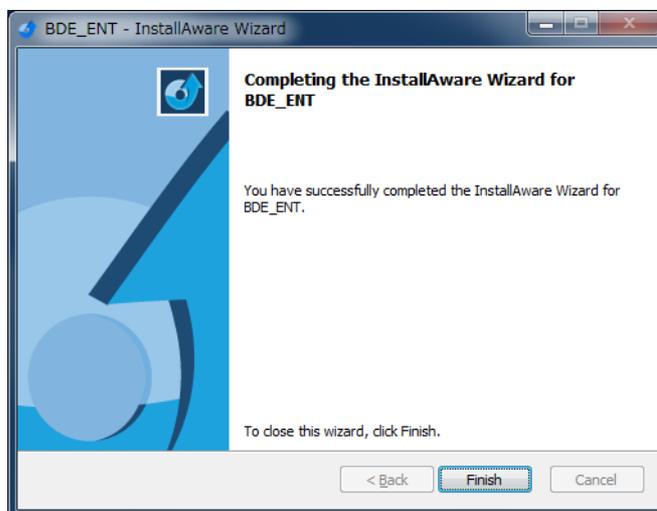
3. 画面が表示されますので「Next」をクリックします。



4. 経過が表示されますのでしばらくお待ちください。



5. アンインストールが完了するとダイアログが表示されますので「Finish」をクリックします。

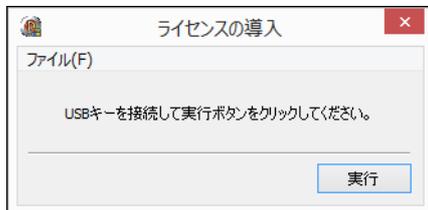


1-6 キー設定

「キー設定」ではライセンスに関する以下の4つの作業を行うことができます。

- ライセンスキーの導入および撤去
- ユーザープロファイルの作成
- 保守期限コード設定画面の表示
- ライセンス情報の表示

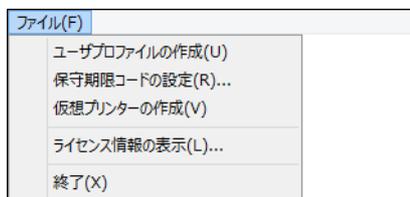
「キー設定」の起動はスタートメニューから行います。



ウィンドウタイトルはライセンスキーの導入状況により「ライセンスの導入」もしくは「ライセンスの撤去」のいずれかが表示されます。ライセンスの導入もしくは撤去を行う場合はキーディスクを接続してから実行ボタンをクリックします。

1-6-1 ファイル

メニューの「ファイル」について説明します。



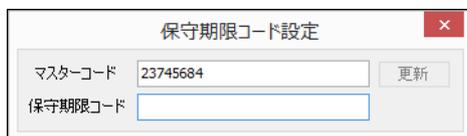
1. ユーザープロファイルの作成

キーディスクが使用できない環境でライセンスの導入を行う場合に使用します。手順は以下の通りです。

- ① 「ユーザープロファイルの作成」をクリックします。
- ② 確認のメッセージが表示されますので「はい」をクリックします。
- ③ デスクトップに「UserProfile.PRM」が作成されますので弊社宛にメールで送ります。
- ④ 弊社から「ZeroDivide.PTN」が返送されますので、Trinityの導入先フォルダ内のWinfdフォルダにコピーします。例 c:\TR_RENTWinfd
- ⑤ 最後にメニューを起動して動作確認を行います。起動できればライセンスは正しく反映されています。

2. 保守期限コードの設定

保守期限コードの設定画面を表示します。Trinityでは保守ユーザー専用機能を使用する為に保守期限コードを設定する必要があります。



保守ユーザー専用機能を始めて使用する場合は設定画面が自動で表示されますが、アップデートなどで保守期限の再設定を行う場合や明示的に保守期限コードの設定を行いたい場合にはキー設定のメニューから起動します。

起動すると画面にマスターコードが表示されますので弊社宛にメールでお送り下さい。弊社で確認でき次第、保守期限コードを送付させていただきます。送付された保守期限コードを入力後、更新ボタンをクリックすることで保守ユーザー専用機能が使用できるようになります。

- ※ 保守期限コードの有効期間は1年です。継続して保守ユーザー専用機能を使用する場合は保守契約の更新を行ってください。
- ※ スケジュールをサービスで動かしている場合、保守期限切れに気がつかない場合があります。期限切れにはご注意ください。

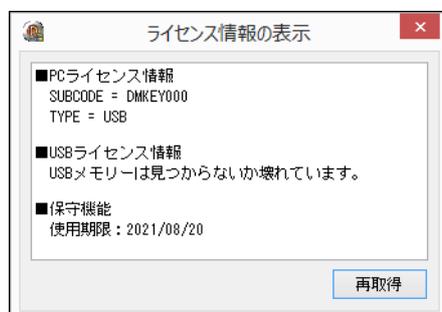
3. 仮想プリンターの作成 / 削除

設計書の表示や印刷ではプリンターから様々な情報を取得しますが、環境によってプリンターが導入できない場合やプリンター関連のエラーが発生してうまく表示や印刷できない場合があります。

このような場合に仮想プリンターを作成することでエラーを回避できる場合があります。

4. ライセンス情報の表示

PC に導入済みのライセンス情報を表示します。キーディスクが接続されている場合はキーディスクのライセンス情報も表示します。



再取得ボタンをクリックするとライセンス情報を最新の状態に更新します。キーディスクを接続し直した場合などに使用してください。

保守期限コードが有効期限内の場合には使用期限も表示されますので、保守機能がいつまで使用できるか知りたい場合にはこの画面で確認を行ってください。

5. 終了

キー設定を終了します。

1-7 製品に関するお問い合わせ

製品に関する問い合わせや要望を行うことができます。

各項目を記入して画面右下の「上記の内容でメールを送信する。」をクリックします。弊社でお問い合わせが確認でき次第、回答させていただきます。

なお環境によってお問い合わせが届かない場合もございますので、1週間を経過しても弊社からの回答がない場合はお手数ですが別途メールやお電話でお問い合わせをお願いいたします。

2 章 環境設定

2-1 はじめに

ここでは Trinity を使用する場合に必要となる様々な環境設定の手順について解説します。なお **Windows Vista 以降の場合は LAN 環境で使用しない場合でも、必ず「BDE Administrator を使った環境設定」の手順に従って NET DIR の設定を行ってください。**

- ・ BDE Administrator を使った環境設定
- ・ 社名の設定
- ・ 保守機能の期限コード設定
- ・ サービスの登録
- ・ クライアント版の追加設定
- ・ 管理者権限以外で使用する場合の設定

2-2 BDE Administrator を使った環境設定

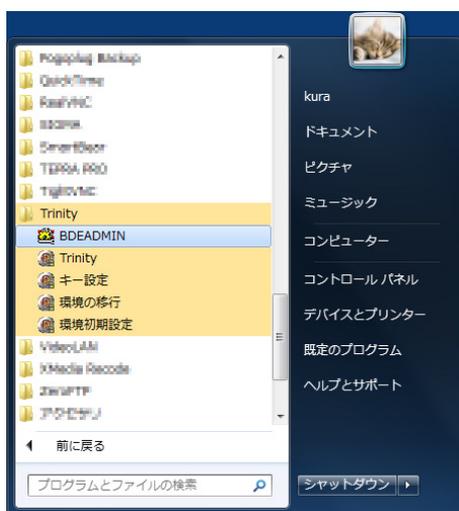
Trinity ではデータベースエンジンとして BDE (ボーランドデータベースエンジン) を使用しています。ここでは「BDE Administrator」を使用した各種設定の変更方法を説明します。

データベースの環境設定には主に以下の 2 点があります。

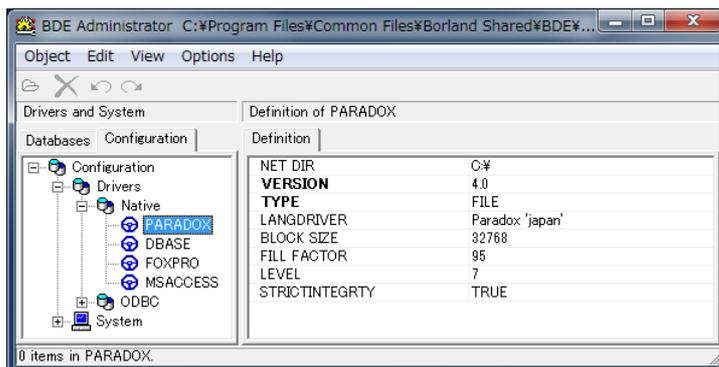
- ・ ファイルをネットワーク経由で共有する場合の設定
- ・ データベースのファイルサイズに関する設定

2-2-1 BDE Administrator の起動と終了

1. スタートメニューから「BDEADMIN」を起動します。なお **Windows Vista 以降の場合は必ずポップアップメニューの「管理者として実行」を使って起動してください。**

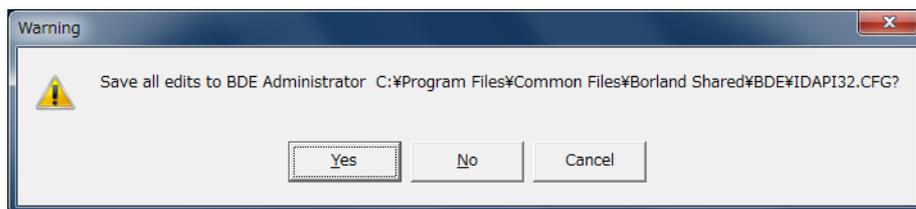


2. BDE Administrator が起動したら「環境設定タブ (Configuration)」をクリックします。続いて「Drivers」→「Native」→「PARADOX」の順で選択をおこなって PARADOX の定義画面を表示します。



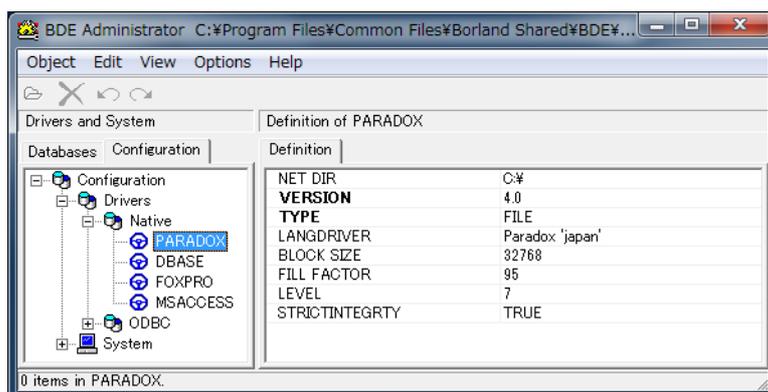
3. 設定を変更します。主な設定内容については後述します。

4. 「オブジェクト (Object)」メニューから「終了 (Exit)」を選択するか、閉じるボタンで BDE Administrator を終了します。現在の設定を保管するかメッセージが表示されますので「はい (Yes)」を押して設定を保管してください。



2-2-2 BDE Administrator の設定項目

ここでは Trinity の使用に関係する設定項目について説明します。



1. NET DIR

BDE ではネットワーク経由で複数のユーザーがアクセスする際にコントロールファイルを使って利用状況の管理などをおこなっています。この設定ではコントロールファイルの保管場所を設定することができます。

複数ライセンスを購入して設計書を共有する場合には必ず設定を行ってください。

設定は直接入力を行うか、入力エリア横の「...」と書かれたボタンをクリックしてフォルダ一覧から選択を行います。設定が完了したらエンターキーを押して決定します。

なお Windows Vista 以降の場合は必ずサブフォルダを指定してください。ルートを指定するとファイルアクセス時にエラーになります。またコントロールファイルはネットワーク上に1つだけ存在するように設定してください。複数存在する場合はファイルアクセス時にエラーとなります。

2. BLOCK SIZE

テーブルを作成する際のブロックサイズを設定します。

例えば翻訳対象となるメンバーソースが非常に多い場合などにエラーが発生する場合は、この設定を変更することでエラーを回避することができます。

設定サイズの目安については以下の通りですが、通常は最大値 (32768) で運用して頂いて問題ありません。

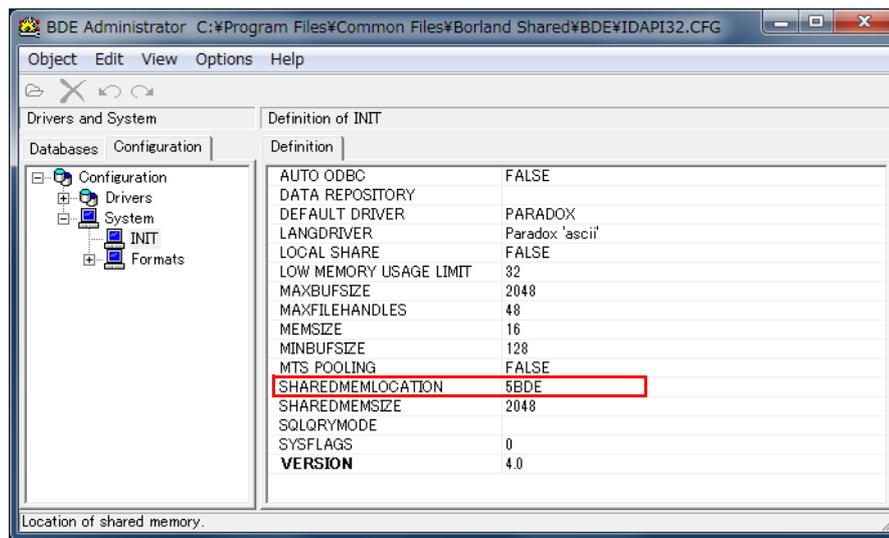
1 万本前後	8192
2 万本前後	16384
3 万本以上	32768

ブロックサイズを大きくすると個々のテーブルサイズが大きくなりますので、値を変更する場合は翻訳対象となるメンバーソースの上限に合わせて適値を設定するようにしてください。

2-2-3 BDE の初期化エラーについて

複数のアプリケーションを同時に起動した時に「Borland Database Engine の初期化中にエラーが発生しました。」というエラーメッセージが表示される場合があります。その場合は以下の手順に従って BDE の設定を変更することで改善される場合があります。

1. Trinary の全アプリケーションを終了します。
2. スタートメニューから「BDEADMIN」を起動します。なお Windows Vista 以降の場合は必ずポップアップメニューの「管理者として実行」を使って起動してください。
3. BDE Administrator が起動したら「環境設定タブ (Configuration)」をクリックします。続いて「System」→「INIT」の順で選択をおこなって定義画面を表示します。
4. 定義画面内の「SHAREDMEMLOCATON」の値を「5BDE」に変更してエンターキーを押します。



5. 「オブジェクト (Object)」メニューから「終了 (Exit)」を選択するか、閉じるボタンで BDE Administrator を終了します。現在の設定を保管するかメッセージが表示されますので「はい (Yes)」を押して設定を保管してください。

変更手順については以上です。

2-3 社名の設定

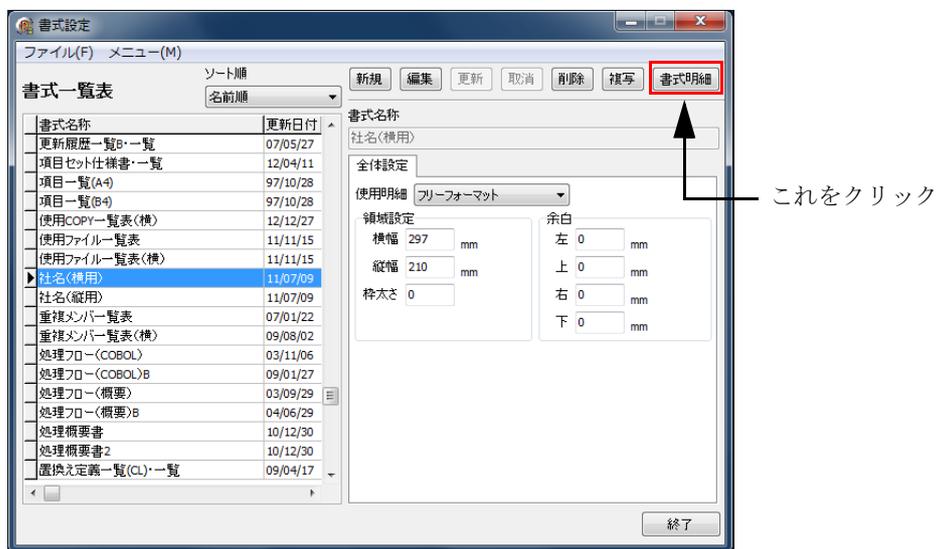
設計書に出力される社名を変更したい場合には以下の手順で作業を行います。

1. はじめに書式設定を起動します。

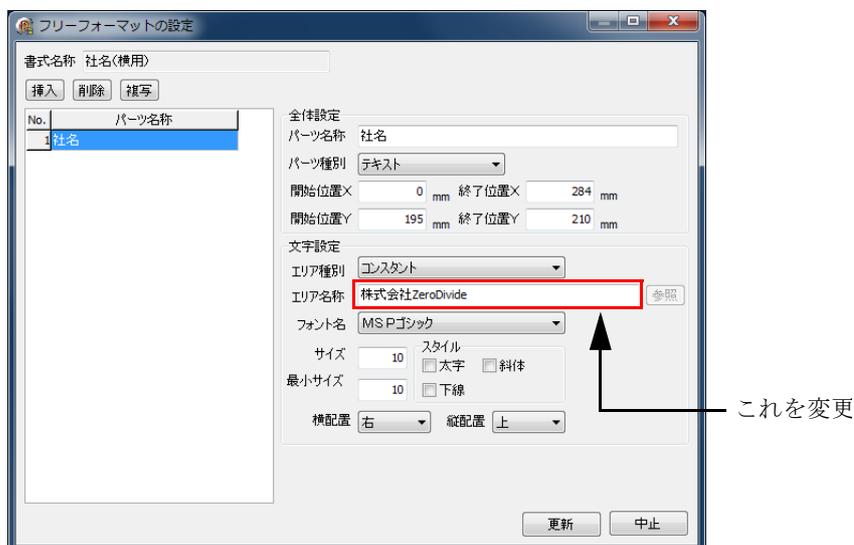
書式設定はメニューの「システム」内の「印刷設定」内にあります。



2. 続いて書式一覧表から「社名（横用）」を選択して画面右上の書式編集ボタンをクリックします。



3. 書式フリーフォーマット設定画面が表示されますので、画面右側の「エリア名称」の内容を御社名に変更します。変更が終わったら更新ボタンをクリックして内容を決定します。

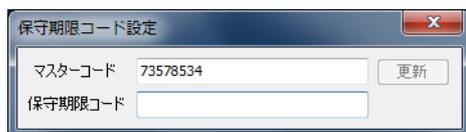


4. 書式一覧表から「社名（縦用）」を選択して同じように変更を行います。

2-4 保守機能の期限コード設定

保守ユーザー専用機能を使用する為には保守期限コードを設定する必要があります。

機能を始めて使用する場合、該当機能（PDF 設計書の作成など）を起動するとメッセージが表示された後で以下のような保守期限コード設定画面が表示されます。



アップデートなどで保守期限の再設定を行う場合や明示的に保守期限コードの設定を行いたい場合には「キー設定」から起動します。詳しくは 11 ページの「キー設定」を参照してください。

画面にはマスターコードが表示されていますので弊社宛にメールでお送り下さい。確認出来次第、保守期限コードを送付させていただきます。送付された保守期限コードを入力後、更新ボタンをクリックすることで保守ユーザー専用機能が使用できるようになります。

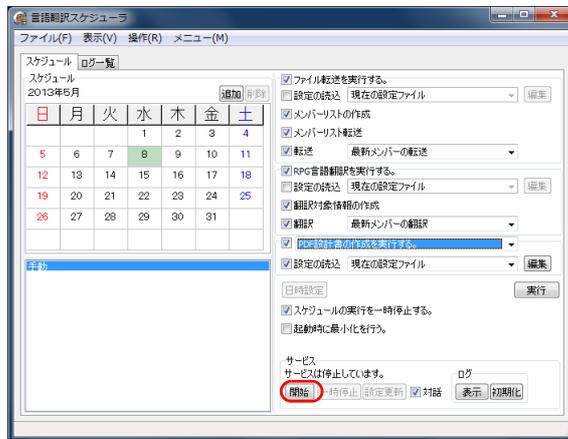
※ 期限コードの有効期間は 1 年です。継続して保守ユーザー専用機能を使用する場合は保守契約の更新を行ってください。

※ スケジュールをサービスで動かしている場合、保守期限切れに気がつかない場合があります。保守機能の期限切れにご注意ください。

2-5 サービスの登録

スケジューラは Windows サービスとして実行することもできます。ここでは **Windows Vista 以降でサービスを実行する場合や特定ユーザーのアカウントを使って実行する場合**の手順を説明します。なお本文は簡易操作説明書からの抜粋になります。

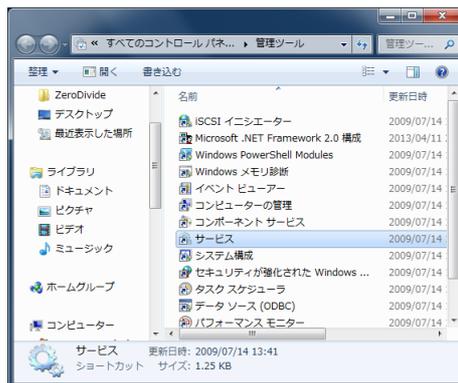
まずスケジューラでサービスを開始します。画面の右下「サービス」の [開始] ボタンをクリックします。



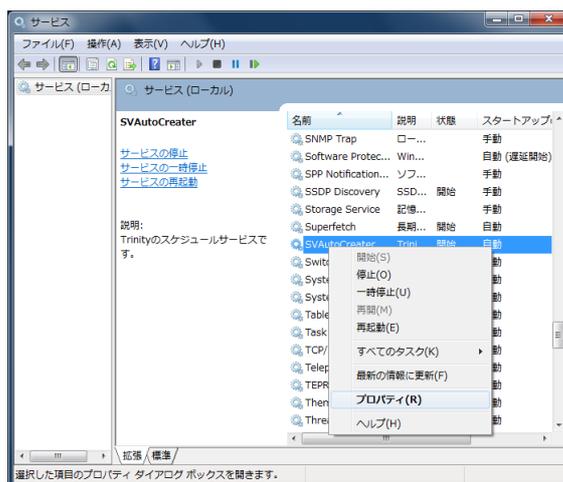
次にコントロールパネルから「管理ツール」を起動します。



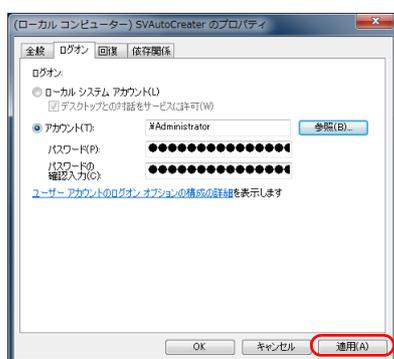
管理ツールが起動したら「サービス」を起動します。なお Windows Server ではスタートメニューの「管理ツール」から直接「サービス」を起動できます。



サービスの管理画面が起動したら画面をスクロールさせて「SVAutoCreator」という名前のサービスを選択します。次にポップアップメニューを表示させて「プロパティ」をクリックします。



プロパティの画面が表示されますので「ログオン」タブをクリックします。最初は「ローカルシステムアカウント」になっていると思いますので「アカウント」をクリックして、サービスを実行するアカウントとパスワードを入力して [適用] ボタンをクリックします。

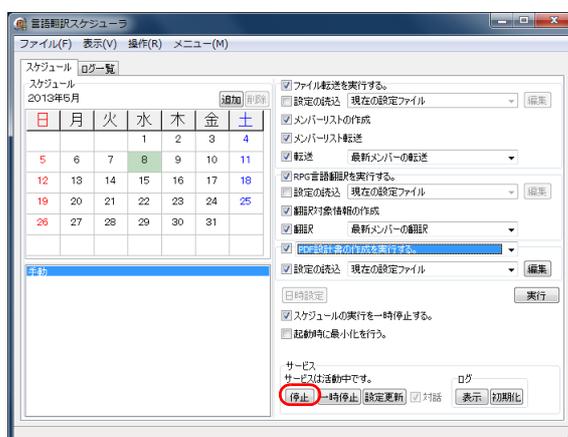


※ 使用するユーザーアカウントはローカル PC の管理者権限を持つものを使用してください。

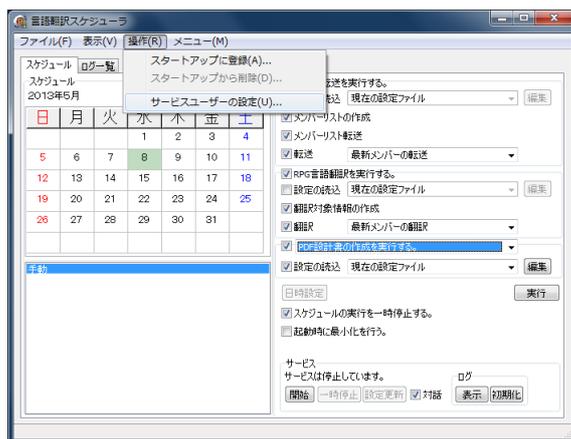
問題がなければアカウントにサービスとしてログインする権利が与えられたメッセージが表示されますので [OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。

※ サービスの画面についても閉じるボタンをクリックして閉じます。

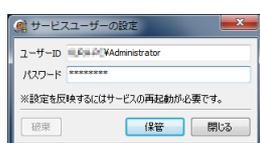
次にスケジューラの画面に戻って、サービスを停止させます。サービスの [開始] ボタンが [停止] ボタンに変わっていますのでクリックします。



次にメニューの「操作」から「サービスユーザーの設定」を選択します。



サービスユーザーの設定画面が表示されたら先ほどサービス「SVAutoCreator」のプロパティでログインする権利を与えたアカウントのユーザー ID とパスワードを設定して [保管] ボタンをクリックします。



最後にサービスの [開始] ボタンをクリックしてサービスを開始したら設定は終了です。なおサービスで動かした場合、スケジューラを起動しておく必要はありません。通常は閉じておいてください。

なおサービスでスケジュールがうまく動作しない場合は下記を確認してみてください。

1. サービスの開始で失敗する場合はアカウント情報を確認してください。
2. EXCEL 設計書の作成や Docuworks 設計書の作成についてはサービスで実行できません。これらについてはスケジューラを待機させる方法で運用してください。
3. 変換機能（PDF 設計書の作成など）で失敗する場合、オプション設定の再起動メモリー量などを調整してください。アプリケーションの使用メモリーが 2G を超えとうまく動作しないため、4G 以上のメモリーを積んでいるサーバー OS などの場合にはメモリーの使用量が適正になるように値を調整する必要があります。

PC の個体差や OS のバージョンによってはサービスの「対話」チェックボックスをオフにするとうまく動作する場合があります。

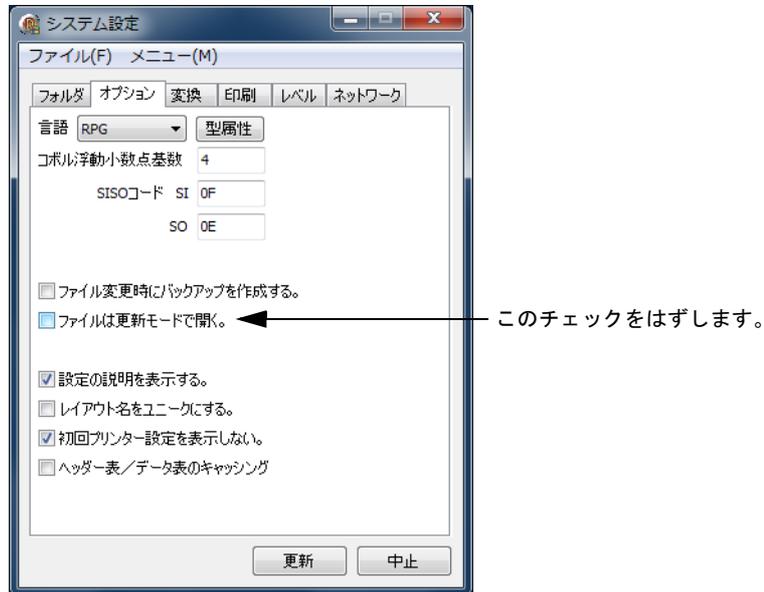
2-6 クライアント版の追加設定

ここではクライアント版に固有な設定について説明します。

2-6-1 システム設定の変更

クライアント版から翻訳結果の修正を行わない場合は以下の手順で設定を行ってください。

1. メニューからシステム設定を起動します。
2. 「オプション」タブをクリックします。
3. 「ファイルは更新モードで開く」のチェックをはずします。



2-7 管理者権限以外で使用する場合の設定

ここでは Trinity を管理者権限以外の環境で使用するための設定について説明します。

通常 Trinity は管理者権限の環境で運用を行います。社内のセキュリティーポリシーなどから管理者権限での運用が難しい場合があります。そのような場合には下記の手順に従って設定を行うことで管理権限以外の環境でも Trinity をご利用頂く事ができます。

なお設定作業は管理者権限で行ってください。

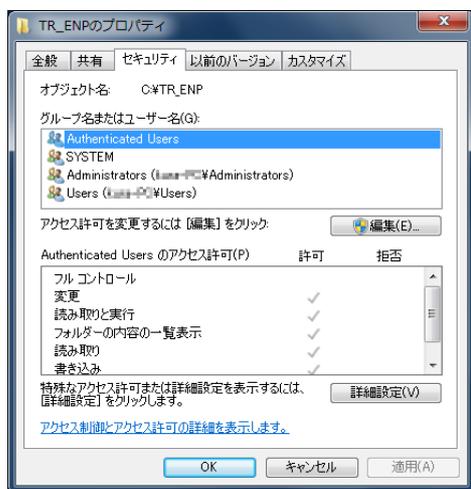
1. インストール先フォルダのアクセス権限設定

最初に Trinity のインストール先フォルダをマウスの右ボタンでクリックしてポップアップメニューを表示させてプロパティを選びます。なお Enterprise 版を標準でインストールした場合には

「C:\TR_ENP」

がインストール先のフォルダとなります。

プロパティのダイアログが表示されたらセキュリティタブをクリックします。



名前の一覧から Trinity を使用するユーザーを選択してから「アクセス許可」の「フルコントロール」をチェックします。チェックが完了したら OK ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

2. BDE フォルダのアクセス権限設定

「C:\Program Files\Common Files\Borland Shared」に対しても上記と同様の操作で使用するユーザーの「アクセス許可」を「フルコントロール」に変更します。

3. NET DIR の設定

BDE のアクセス権限の設定が完了したら 14 ページの「BDE Administrator の設定項目」の「NET DIR」の項目を参考にして使用するユーザーがフルコントロールでアクセスできるフォルダを設定します。

※ 保守契約を結んでいるお客様へ

保守ユーザー用機能(PDF設計書の作成など)をご使用頂く為には上記の設定以外に弊社技術員によるレジストリの設定作業などが必要です。設定の必要がある場合には事前にご相談ください。

3章 ソフトウェアの移行

3-1 はじめに

ここでは現行のソフトウェアからの移行について説明します。

必ずこの説明に一通り目を通してから作業を開始してください。内容に関して疑問点等ございましたら弊社までご連絡ください。

導入の流れは以下のとおりです。

1. 旧ソフトウェアのバックアップ
2. 旧ソフトウェアのアンインストール
3. 新 Trinity のインストール
4. バックアップした環境からの移行
5. 辞書の再構築

また入力画面の新規追加を行っている場合には引き続き以下の作業を行います。

6. 入力画面の移行

3-2 旧ソフトウェアのバックアップ

新 Trinity のインストールに先立って旧ソフトウェア環境のバックアップを行います。

現在の環境が Trinity の場合、バックアップ元フォルダは以下の通りです。

```
\TR_ENP ..... Enterprise 版
\TR_DOC ..... Document 版
\TR_DEV ..... Developer Client 版
\TR_USER ..... User Client 版
```

ドキュメントマスターの場合、バックアップ元フォルダは以下の通りです。

```
\DM_Pro ..... Professional 版
\DM_Avd ..... Advanced 版
\DM_Client ..... Client 版
```

例えば、現在 Trinity がインストールされているフォルダが

```
C:\TR_ENP
```

の場合は

```
C:\TR_ENP.old
```

などの名前でコピーを行います。

※ もしドライブに空きが無い場合は別ドライブにコピーしてもかまいません。

3-3 旧ソフトウェアのアンインストール

バックアップが完了したら「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」を使ってソフトウェアのアンインストールを行います。

※ 導入先PCを変更する場合はキー情報のアンインストールを行ってから作業して下さい。

※ アンインストール後にインストール先フォルダ（「C:\TR_ENP」や「C:\DM_Pro」など）が完全に削除されているか確認してください。もし完全に削除されていない場合はこの時点で削除してください。

3-4 新 Trinity のインストール

新バージョンの CD-ROM もしくはキーディスクを使ってインストールを行います。

1 ページ「Trinity の導入」を参考にインストールを行ってください。なおインストールを行う場合、基本的には管理者権限があるユーザーでインストールを行ってください。また必要に応じて**保守期限コードの再設定**も行ってください。保守期限コードの設定については 17 ページを参照してください。

3-5 バックアップした環境からの移行

新バージョンの Trinity に今まで使用していた各種設定を移行させます。

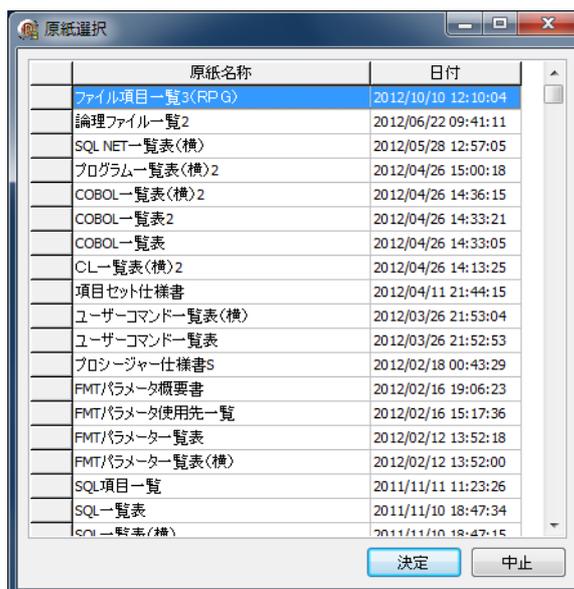
『スタートメニュー』 → 『Trinity』 → 『環境の移行』を選んで実行します。



- 現在の導入フォルダ..... 新しく導入した Trinity の導入先フォルダ名を設定します。なお通常はデフォルトのままです。
- バックアップフォルダ..... バックアップした旧ソフトウェア環境のフォルダ名を設定します。
- 以前の導入フォルダ..... 今回の導入先フォルダが前回と異なる場合に前回の導入先フォルダを設定します。この設定が正しく行われていないと正しく動作しなくなりますので注意してください。なお前回と同じフォルダに導入した場合は設定を行いません。(空にしておきます)
- ライセンスの移動..... チェックされている場合、ライセンスを移動します。同一 PC 内でバージョンアップを行う場合はチェックして下さい。
- パラメータの更新..... チェックされている場合、パラメータファイルに新たに追加された定義の初期値を追加します。

設定が完了したら『移行開始』ボタンをクリックします。確認のメッセージが表示されますので『はい』をクリックして処理を続行します。

処理の途中で原紙移行のためのダイアログが表示されます。



もし旧環境で変更および追加した原紙が存在する場合にはスペースキーもしくはマウスの左ボタンをダブルクリックして選択を行ってください。なお旧環境の方が新しい原紙や旧環境のみに存在する原紙は自動で選択されます。選択が終わったら決定ボタンをクリックしてください。

選択された原紙の移行が行われてから社名の移行が行われます。移行が完了するとその旨のメッセージが表示されますので『OK』ボタンをクリックして窓を閉じます。

以上で環境設定の移行は終了です。

※TTO ファイルについて

クライアントアクセスやパーソナルコミュニケーションズを使ったファイル転送は、TTO ファイルとして保管された各種設定を元に行われますが、上記の移行作業では、このファイルについての移行は行われません。

TTO ファイルは通常、クライアントアクセスなどのフォルダに保管されていますが、このファイルがバックアップしたフォルダ内に保管されている場合は手作業で新しくインストールした Trinity のフォルダにコピーしなければなりません。

現在使用中の TTO ファイルについては『ファイル転送』の『オプション設定』で確認することができます。

※BDE のブロックサイズについて

翻訳対象メンバー数が 1 万本を越える場合、BDE の BLOCK SIZE に 2048 を超える値が設定されている場合があります。この値は Trinity がインストールされる時に初期化されますが、環境の移行を行うと以前の値に戻ります。

ただし Trinity のバージョンによっては以前の値をうまく設定できない場合がありますので、環境の移行を行った際は、必ず BDE の BLOCK SIZE を確認し、設定値が初期値の場合は値を変更してください。

設定は翻訳対象メンバーが 1 万本前後で 8192、3 万本前後で 32768 の値を目安に設定を行ってください。

3-6 辞書の再構築（Enterprise/Document 版のみ）

最後に辞書の再構築を行います。バージョンアップに伴い辞書が新しくなっていますので、必ず辞書の再構築を行ってください。

1.RPG 言語翻訳の『翻訳対象情報』の再構築

翻訳対象情報の再構築は RPG 言語翻訳の『翻訳対象情報の作成』で行うことができます。なおフィールド辞書の再構築を行う場合には『翻訳対象情報の作成』の『フィールド辞書の作成を行う』をチェックしてから再構築を行ってください。

※設計書について

基本的に設計書については再翻訳を行わなくても問題はありません。旧版で翻訳された結果は新しい原紙で表示させると内容の一部が出力されない場合がありますが、基本的な内容は旧版で出力したものと同一内容が出力されます。

そのため新しい内容が反映された設計書が欲しい場合に再翻訳を行ってください。

3-7 入力画面の移行（必要な場合のみ）

以前のソフトウェア環境で入力画面を変更した場合、専用のプログラムを使用して入力画面を移行することができます。移行作業は「システムフォルダ」（初期値は「TR_ENP/SYSTEM」）と「TR_ENP/CLIENT」の2つのフォルダに対して行います。

※ 以下 Enterprise 版を元に説明を行いますので、導入ライセンスにあわせてフォルダ名を読み替えてください。

1. 「\TR_ENP\WINFD」フォルダ内の「CONVINPGAM.EXE」を起動します。



2. はじめに「変換元フォルダ」を指定します。

ここには現行の Trinity の入力画面が保管されているフォルダ（「システム設定」の「システムフォルダ」で指定されているフォルダ、および「\TR_ENP\CLIENT」。ただし、バックアップを指定する場合はそれを考慮すること）を指定します。

3. 次に「変換先フォルダ」を指定します。

ここには変換を行った入力画面を保管するためのフォルダを指定します。ただし、新しい Trinity のフォルダを直接指定するのは避けてください。

4. 設定が完了したら変換ボタンをクリックします。

確認のダイアログが表示されますので変換を行う場合は「はい」をクリックします。しばらくすると変換終了のダイアログが表示されますので OK ボタンをクリックします。

5. 終了ボタンをクリックして変換プログラムを終了します。

6. 最後に変換した入力画面を新しい Trinity に複写します。

複写先は「システム設定」の「システムフォルダ」で指定されているフォルダ（初期値では「\TR_ENP\SYSTEM」）、および「\TR_ENP\CLIENT」に上書きで複写します。

